


活動名	徳地の森環境学習プログラム				
概要	徳地の森を活用した環境学習プログラムを通して、自然に親しむことや自然の生態系などについて学び、普段の生活に活かしていこうとする態度を培います。5種類のアクティビティの中から希望のアクティビティを選択して実施します。複数のアクティビティを組み合わせ、より学びを深めることも可能です。				
時期	通年	所要時間	1～3時間	人数	1班40名以下
活動の持つ効果(特質)	①自然に親しむことができる。 ②生態系について学び、自然についての知識や理解を深めることができる。				
準備物	青少年自然の家で貸し出すもの			団体・個人で準備するもの	
	①指導資料ファイル ②その他（各アクティビティで準備物が異なるため「各アクティビティの概要」を参照）			<input type="checkbox"/> 「各アクティビティの概要」を参照	
手順	①実施するアクティビティをあらかじめ選んでおきます。数種類のアクティビティを組み合わせ、よりいっそう学びが深まるプログラムを構成することも可能です。 ②活動の30分前までに、事務室で団体担当者と自然の家職員が打合せをします。 ③用意した準備物を各班に配付し、指導資料の要領に従って説明進行します。（ねらい・プログラム概要・時間配分・安全上の注意点など） ④ふりかえりをして活動のまとめをします。				
留意点	①プログラムの指導や説明進行は、基本的に各団体の指導者でしていただきますが、別途研修指導員を依頼することも可能です。研修指導員には指導料金が必要です。 ②フィールドワークが主です。危険な動植物について必ず説明確認しておきます。 ③詳細については自然の家で貸し出す指導資料ファイルを参照ください。				

○各アクティビティの概要

【No. 1 同じもの探し】

(ねらい) ①観察の視点と方法を学ぶ。

②自然にふれ、自然に親しむ。

(内容) ①指導者が準備した自然物と全く同じものを指定するエリアにおいて各班で採取する。

②答え合わせをした後、採取された自然物にふれながらまとめをする。

(準備物) ①見つけてほしい自然物（ドングリ・葉っぱなど）（分量はA4の大きさに乗る程度）

②バンダナ1枚

③答え合わせ用大判紙（適量）

④A4の紙1枚

⑤赤色マジック1本

⑥袋（各班分+指導者用1袋）（中身が見えない袋）

⑦危険動植物の説明に使う写真（自然の家で貸し出します）

【No. 2 葉っぱ比べ】

(ねらい) 葉っぱの大きさを比べることで、木の命をつなぐための進化と戦略を知る。

(内容) ①指定するエリアにおいて各班で一番大きいと思う葉っぱを採取する。

②採取された葉っぱを比べながら単葉と複葉の違いについて説明し各班から意見を聞く。

③まとめをする。

- (準備物) ①軍手
 ②まとめのときに見せる葉っぱ (自然の家で貸し出します)
 ③危険動植物の説明に使う写真 (自然の家で貸し出します)

【No. 3 森の生態系】

- (ねらい) 木を中心とする「食物網」の図を描くことで
 ①物質が循環していることを知る。
 ②植物が生態系の下支えをしていることに気づく。
 ③人間も生態系の一部だと理解する。
- (内 容) ①葉っぱと土の中の生き物とのつながりについて参加者から意見を聞きながら考える。
 ②食物連鎖と食物網の説明をする。
 ③班ごとに大判用紙に食物網の図を描く。
 ④班ごとに発表した後、まとめをする。
- (準備物) ①大判用紙 (各班分)
 ②プロッキー (各班分)
 ③食物網の図 (自然の家で貸し出します)

【No. 4 落ち葉の下の世界】

- (ねらい) 落ち葉や落ち葉の下の土を観察することで
 ①森の働き (土を作る・水を保つ) を知る。
 ②落ち葉と生き物の関係 (つながり) を知る。
- (内 容) ①指定するエリアにおいて班ごとに落ち葉と落ち葉の下の土を採取する。
 ②採取した土を観察して観察シートに記入する。
 ③班ごとに発表した後、発表内容のまとめをする。
- (準備物) ①軍手
 ②新聞紙
 ③割り箸
 ④バット (自然の家で貸し出します)
 ⑤移植ごて (自然の家で貸し出します)
 ⑥ルーペ (自然の家で貸し出します)
 ⑦観察シート (自然の家で貸し出します)
 ⑧危険動植物の説明に使う写真 (自然の家で貸し出します)

【No. 5 森の働き】

- (ねらい) KJ法で「森の働き」について考えることにより
 ①森が私たちの生活を守っていることを知る。
 ②森を守ることが自然環境の保全につながることに気づく。
- (内 容) ①徳地の森に棲む生き物の名前を聞いてみる。
 ②挙がった生き物にふれながら森の働きの一つに「生き物の棲み家」があることを説明する。
 ③KJ法について説明する。
 ④森の働きについて班ごとに意見を付箋紙に書き大判用紙に貼る。
 ⑤班ごとに発表した後、まとめをする。
- (準備物) ①大判用紙 (各班分)
 ②付箋紙 (各班分)
 ③プロッキー (各班分)

徳地の森の環境学習

2010年度改訂版

[学習テーマ]



実施時間：45分
(1単位時間程度)

対象：小学校3年以上



実施時間：90分
(2単位時間程度)
対象：小学校5年以上



実施時間：90分
(2単位時間程度)
対象：小学校5年以上

[基本プログラム]

No.1 同じもの探し

ねらい

同じもの探しをすることで

1. 観察の視点と方法を学ぶ。
2. 自然にふれ、自然に親しむ。

No.2 葉っぱ比べ

ねらい

葉っぱの大きさを比べることで、

1. 木の命をつなぐための進化とその戦略を知る。

No.3 森の生態系

ねらい

木を中心とする「食物網」の図を描くことで、

1. 物質が循環していることを知る。
2. 植物が生態系の下支えをしていることに気づく。
3. 人間も生態系の一部だと理解する。

No.4 落ち葉の下の世界

ねらい

落ち葉や落ち葉の下の土を観察することで、

1. 森の働き(土を作る・水を保つ)を知る。
2. 落ち葉と生き物の関係(つながり)を知る。

No.5 森の働き

ねらい

K・J法で「森の働き」について考えることにより

1. 森が私たちの、生活を守っていることを知る。
2. 森を守ることが、自然環境の保全につながることに気づく。

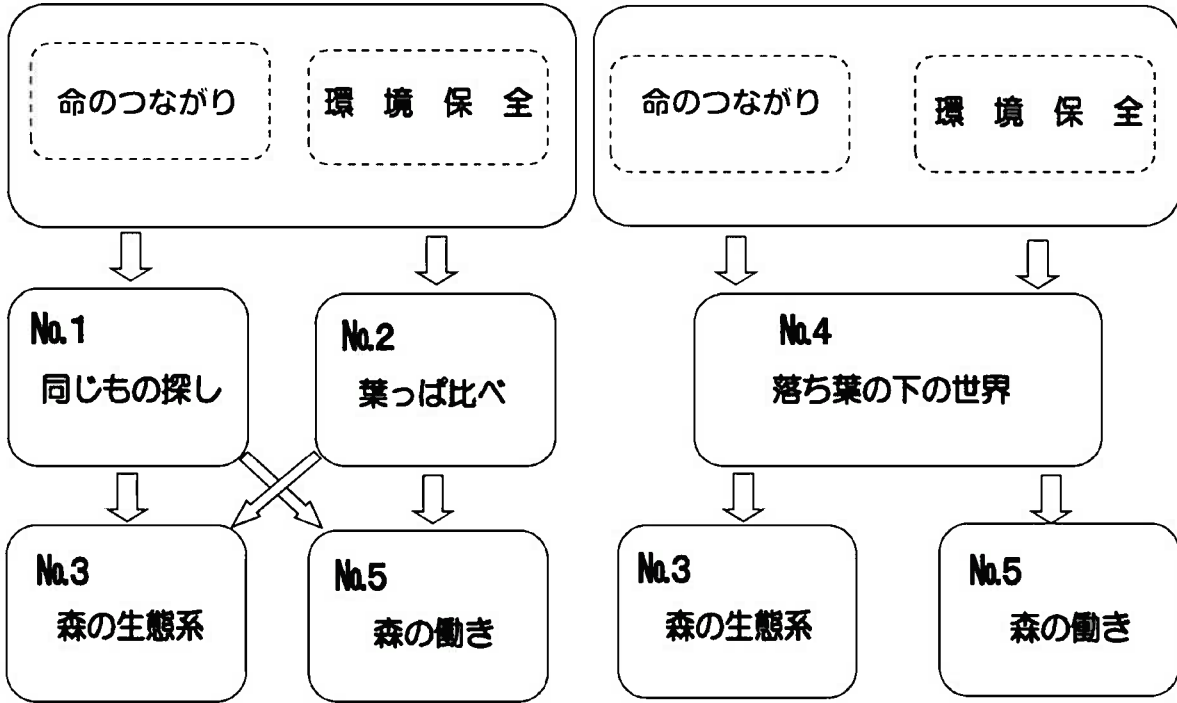
○プログラム構成例

より学びを深めるためのプログラム構成・・・

各アクティビティーを組み合わせることで、学習テーマをより深める展開が可能です。

実施時間：135分コース
(3単位時間程度)
対象：小学校5年生以上

実施時間：180分コース
(4単位時間程度)
対象：小学校5年生以上



○目的に合わせて、45分～180分(1～4単位時間)の設定が可能です。

* 宿泊活動プログラム実施(例)

	9:30~12:30		13:30~16:30		19:00~21:00	
1日目	入所/ 入所OR	昼食	オリエンテーリング	夕食	天体観察	就寝
2日目	TAP(1・2組) 環境学習プログラム (3・4組)	昼食	環境学習プログラム (1・2組) TAP(3・4組)	夕食	キャンドルサービス ----- ふりかえり	就寝
3日目	野外炊飯	昼食	退所式/ 退所			

・午前・午後のプログラムを、クラスを入れ替えて実施することも可能です。

プログラム企画・活動参考資料
野外活動ガイド
屋内活動ガイド
自然の家外施設ガイド
低学年向け活動ガイド